

大阪市大『創造都市研究』第7巻第1号（通巻10号） 2011年6月

■ 投稿論文 ■

69頁～92頁

## ソーシャルネットワークを通じた デザイン活動の可能性 ーアルゼンチンを事例としてー

鈴木美和子（大阪市立大学大学院・創造都市研究科・博士（後期）課程）

The Possibilities of Design Activity through the Social Network : The Argentine Case

Miwako SUZUKI (Doctoral Course, Graduate School for Creative Cities, Osaka City University)

### 【要旨】

本研究の目的は、アルゼンチンの事例を通し、デザイン分野におけるソーシャルネットワークの機能や効果について社会的な持続可能性の観点から評価するとともに、その分析を基に、今後のデザイン活動についての可能性や政策的課題を、文化資本のコンセプトを援用しながら明らかにすることである。中南米、中でもアルゼンチンは、新自由主義経済改革により、経済危機、社会的崩壊の被害を最も被った地域である。経済的社会的荒廃の中で、再生の原動力となったのは、ネットワークを活用したデザイン関係活動や社会的な問題解決のためのデザイン活動であった。このようなアルゼンチンのソーシャルネットワークを通じたデザイン関係活動は、深刻な社会問題や新自由主義経済システムへの不信、市民社会運動などを背景に、ソーシャルネットワークサービスを活用などとリンクし、デザイナー起業や学術的交流、市民社会との連携などダイナミックな動きや変化を作り出しており、持続可能な社会システムの形成に寄与していると考えられる。本事例は、今後のデザイン活動の可能性とその政策のあり方を検証するものである。

### 【キーワード】

デザイン活動、ソーシャルネットワーク、市民社会、文化資本、社会関係資本

### 【abstract】

The aim of this paper is to appreciate the function and the effect of the social network in the design field through the Argentina case from the perspective of social sustainability. It also aims to show the possibilities and the political challenges of design activity on the basis of the analysis by quoting the concept of cultural capital. Latin America, particularly Argentina, is the region that suffered the most damage from economic crisis and social collapse due to neo-liberalism economic reform. In the economical and social degeneration that followed the collapse, it was the design-related activities that had a social objective and social networking that served as an engine for recovery. The design-related activities through social networking in Argentina, has created dynamic movement and change, such as designers entrepreunering, academic exchange, articulation with civil society and so on. These, linked with utilization of the social

networking service, against the background of serious social problems, distrust in the neo-liberalism economic system and the movement of civil society, contributed to the formation of a sustainable social system. The Argentina case verifies the possibilities of design activity and the way of the policy for the future.

## [Keywords]

Design, Activity, Social Network, Civil Society, Cultural Capital, Social Capital

## I. はじめに

グローバリゼーションの深化、新自由主義経済の浸透は、途上国にも先進国にも経済格差や失業、貧困、環境破壊など、様々な問題を生み出している。社会問題の深刻化は、社会を不安定にさせ、社会システムにおける持続可能性を後退させている。現在までの経済成長を目的とするパラダイムの中で、デザイン<sup>1)</sup>活動は、売れる製品を生み出すための技術として、主に一部の企業の利潤追求に貢献してきた。しかし、このような経済主導型のデザイン活動自体が環境的持続可能性を脅かすと同時に、社会的な問題を生み出しているという認識が関係者に広がり、社会的にも持続可能となるデザイン活動への方向転換の必要性を認識させるようになってきている。つまり、今後のデザイン活動において、社会的な側面を含むより広範な持続可能性を考慮した観点が重要となり、そのための新たなデザイン活動モデルが求められているのである。

事例として取り上げたアルゼンチンは、新しいデザイン活動の活発化が見られる国の一つであり、本研究で注目するのはデザイン関係者によるソーシャルネットワーク<sup>2)</sup>（以下ネットワークと表記）を通じた活動である。アルゼンチンは、植民地時代からの格差を代表とする社会的経済的構造上の問題を抱え、新自由主義的な経済政策の影響により、失業、経済格差の拡大、社会的排除など社会問題が深刻化した地域として有名である。しかし一方で、社会的経済<sup>3)</sup>を含む新自由主義経済へのオルタナティブな実践や、社会運動、市民社会セクター<sup>4)</sup>による活動などの活発化をもたらした地域でもある。このような状況やICTの発達を背景に、デザイン関係者の多くが、目的に応じたネットワークを構築しながら、市民社会や社会的経済の実践と連携したデザイン活動、デザイナーによる起業、学術的交流、デザイン活動やその政策に関する議論などを活発化させている。ネットワークにより促進されているこれらのデザイン関係活動は、この国や地球規模の社会的な持続可能性を高める重要な要素となっており、また同時に文化的にも意義のある活動になっていると考えられるのである。

本研究は、アルゼンチンの事例を通し、デザイン分野におけるネットワークの機能や効果について社会的な持続可能性の観点から評価するとともに、その分析を基に、今後のデザイン活動にとっての可能性や政策的課題を、文化資本のコンセプトを援用しながら明らかにすることを目的としている。アルゼンチンにとどまらず、デザイン関係者のネットワークは、ウェブ2.0などの活用を通して、急速に広がっていると考えられる。しかし、事象が先行する中、デザイン活動にとってそれがどういう意味を持つのかなどの実証研究が遅れているのが実情である。ネットワーク自体の有効性については先行研究での議論が様々あるが、デザイン活動やその政策のあり方を考える上でネットワークがどのような意味を持っているのかについての先行研究は、特に日本ではほとんど見当たらないと言える。事例は、デザイン政策はもちろん、今後の地域開発政策、都市政策を考える上でも、新しい視野や可能性をもたらすものと考えられる。

## II. 先行研究と考察の理論的枠組み

デザイン活動におけるネットワークの活用については、ブエノスアイレス大学（UBA:Universidad Nacional de Buenos Aires）建築・デザイン・都市計画学部（FADU:Facultad de Arquitectura, Diseño y Urbanismo）工業デザイン学科のBeatriz Galán教授の実践・研究が存在する。Galánは、地域開発や社会開発



を目的としたデザイン活動を社会に定着させるための研究・実践プロジェクトを実施している。プロジェクトは、NGOやマイクロ企業に対するデザイン技術の移転や支援を通し、市民社会の諸組織との連携関係を形成するものであり、社会的経済のセクターにおけるデザインマネジメントモデルの開発や専門教育の新たな方向付けも目標とされてきた。枠組みとして、「シナリオとしては技術変革、メソッドとしては参加型アクションリサーチ、目的としては内発的發展、文化的リーダーとしてのデザイナー、複合システムとしての地域、そして、新しい生産ユニットの支援を容易にしつつ多様性に挑戦するための装置としてのネットワーク<sup>5)</sup>」を前提としている。取り組みの背景として「70年代のアルゼンチンの工業化の失敗には内発的な生産開発のプロジェクトを欠いていた」こと、「イノベーションと理解されていたのはフォーディズム型開発の模倣効果であった」こと、「職人のネットワークは破壊され」、「経済危機後には多くの市民が新しい生産力としてではなく、生活保護の対象と見なされていた」こと、「社会的分裂のプロセスは、地域の問題として受け取られ、生産力に害を与え、社会的関係資本や知識資本の形成を弱める、システムにおけるアクター間の信頼の欠乏の現れであった」などの認識が存在する<sup>6)</sup>。Galánは、デザインプロセスをイノベーションプロセスとして見なしており、イノベーションを成立させるには、市民社会を始めとする様々なネットワークが不可欠であると指摘している<sup>7)</sup>。デザイン分野におけるネットワーク活用の重要性への認識は、社会的弱者による生産活動など個々のプロジェクトを支えただけでなく、彼女自身の教育・研究のあり方を変えることにもつながった。Galánは、さらにプロジェクトを発展させるため、同じようなデザイン活動の実践・研究をしている研究者間の情報を共有、交流するための国を超えたネットワークRED<sup>8)</sup> (Registro de Experiencia de Diseño: デザインの経験の記録所) をウェブサイト上に創設している。

Galánはまた、地域開発や社会開発を目標とするデザイン実践において、「私たちのプロジェクトの一番重要な目的は、生産構造の再構築に変化していき、社会的経済セクターのサバイバルのイニシアティブとの連携を模索した。生産文化の普及による社会的テーマの再構築、つまり社会関係資本の形成に貢献することが目的となった<sup>9)</sup>。」として、デザイン活動を社会関係資本の形成に貢献するものとして位置づけている。社会関係資本という概念は、パットナムを始め、1990年代より研究テーマとして急速に広まった概念であるが、ラテンアメリカにおけるその役割の重要性を示唆する研究も多い<sup>10)</sup>。また、世界銀行のソーシャルキャピタルイニシアティブなどが示すように、持続可能な発展に不可欠な要素としても捉えられている。さらに、市民社会との相乗効果なども指摘されている<sup>11)</sup>。Galánは、社会関係資本の形成を目指し、デザイン支援・実践におけるネットワーク、研究・実践促進のためのネットワークという2重のネットワークをすでに活用しているが、近年は、ウェブ2.0についての共同研究<sup>12)</sup> をするなど、ネットワークの働きを強化する研究を行っている。Galánの研究・実践は、社会的な持続可能性の観点から今後のデザイン活動のあり方を考察する上で、重要な手がかりになると考えられる。つまり、市民社会活動やICTを背景としたネットワークによるデザイン活動が、社会関係資本の形成を通して、持続可能性の構築に貢献する要素となる可能性を示唆するものであると考えられる。

持続可能性という概念とデザイン活動の関係を分析するにあたってさらに有効と考えられるのが、文化資本という概念である。文化経済学の第一人者であるデイビッド・スロスビーは、ブルデューとは異なって文化経済学の理論フレームから文化資本という概念を規定し、これと持続可能性<sup>13)</sup> との関係を議論している。スロスビーが指摘した、持続可能性に対する文化資本の「世代内公平の原理」は、「所得階層、所得グループ、地理的カテゴリーなどの観点から見た、文化資源および文化資本から得られる利益の公正なアクセスに関する現代の世代の権利を主張するもの<sup>14)</sup>」であるが、文化資本が公平に活用されたり享受されたりすることで、社会システムの持続可能性が高まることを示している。デザインを文化資本として把握すれば、文化資本としてのデザインは、デザインされた製品として、経済的価値を生む有形の文化資本としてのイメージが強い。しかしデザイン活動を無形の文化資本として見るとき<sup>15)</sup>、例えば、利潤追求のため大量生産・消費型の経済活動としてのシステムをつくっている場合と、社会問題の解決のために、NGOなどとネットワークを組みながらのデザイン活動を行っている場合とでは社会システムへの影響が大きく変わる。つまり、大



企業や先進国だけがデザイン活動という無形の文化資本を行使し恩恵を受けるのではなく、デザイン活動の享受者が一部の恵まれた人だけではない社会的状況を生み出すことが、社会システムの持続可能性につながるということである。このことは、デザイン活動自体が公平や公正といった原理に依拠することによって、社会的な面で持続可能性を創出できることを示唆するものである。公正さや公平さは、民主的で安定した社会を構築するための重要な観念であるが、デザイン活動という無形の文化資本を公平に活用、享受できること、つまり、デザイン活動を民主的に活用できることが社会的な持続可能性を高める要素の一つと考えられる。

社会関係資本の概念やネットワークとの関係については、社会学、政治学、組織論などですでに様々な研究が存在する。社会関係資本と文化資本や創造資本との関係についてもブルデューなどの議論が存在する。しかし、本研究では、Galánの研究・実践の成果を踏まえ、スロスビーの文化資本の概念を基に、これらの研究とは異なる理論的枠組みから、デザイン活動のあり方について、社会関係資本や社会的持続可能性との関係において考察を試みる。

### Ⅲ. アルゼンチン・ブエノスアイレスの現状と課題

アルゼンチン<sup>16)</sup>は、70年代後半と90年代の2度にわたる新自由主義的経済改革を実施し、他のラテンアメリカ諸国の中でも極端な通貨・金融危機、対外債務危機に陥った国である。特に2001年末には、反政府暴動などによりブエノスアイレス市中が争乱状態となり、短期間による複数の大統領の交代劇など政治的危機も発生した。翌年には、失業率、貧困率が史上空前の悪化を記録した<sup>17)</sup>。新自由主義的経済改革は、それまでの大土地所有制度、不平等税制、特権層の過剰奢侈消費、外国資本の過度の影響などの構造的問題を温存させただけでなく、さらに失業・貧困の増加、格差の拡大、社会保障の後退などの問題を生み出していったのである。このような中で、広がりを見せていったのは、社会運動や市民社会組織による活動である。1995年以降、トルエケ(Truque<sup>18)</sup>)、ピケテロ(Movimiento de Piqueteros<sup>19)</sup>)、カセロラソ(Cacerolazo<sup>20)</sup>)、アサンプレア(Asambleas barriales<sup>21)</sup>)などに代表される社会運動や抗議活動がアルゼンチン全土で活発化していったのである。2003年の大統領選で反新自由主義政策を掲げて当選したキルチネル政権は、それまでのペロン党(正義党)の枠組みを超え、社会運動組織との協調を重視することになった。現フェルナンデス政権(正義党・2007年～)も、同じ路線を踏襲している。

2003年からは、農畜産物の輸出の好調もあり、グローバル金融危機の影響を受けた2009年を除いて、GDP成長率はほとんど8%以上を記録した。2010年の一人当たりのGDPは9138ドルとなり、2001年の経済危機以前以上の水準に回復している。また、失業率や都市貧困人口比率なども2001年の経済危機以後は改善されてきている(図1、図2参照)。但し、ジニ係数では、1999年の0.542から2006年に0.510<sup>22)</sup>と少しの改善は見られるものの、他国と比べれば、格差の構造は歴然としている。一層の社会開発が望まれていると言える。また、アルゼンチン経済は現在好調であるものの、長期的には農産物だけに頼らない経済開発が必要であり、産業の多角化が望まれる。

アルゼンチンはまた、ラテンアメリカの中でも突出した都市への人口集中<sup>23)</sup>が見られる国であり、都市化が急激に進んだ地域でもある<sup>24)</sup>。アルゼンチンにおける都市への人口集中化は、インフォーマルセクターの肥大化をもたらし、貧困問題をはじめとする様々な社会問題をもたらした。大ブエノスアイレス圏は一千万人の人口を抱えている。ブエノスアイレスは、経済、文化の中心である一方で、都市問題の深刻な地域でもあった。アルゼンチンにおいて、市民社会主導の地域・社会開発は、都市における社会排除や貧困など社会問題を民主的かつ柔軟に解決する上で重要な動きとなっている。

ブエノスアイレス市のマクリ市長(共和国提案党・2007年～)は、2001年の経済危機によって立ち上がった市民社会組織の自らの活動をきっかけに政界進出を果たした。様々な社会問題の解決を目指す上で、ブエノスアイレス市政においても市民社会組織の存在を無視することはできない状況となっている。2011年の市



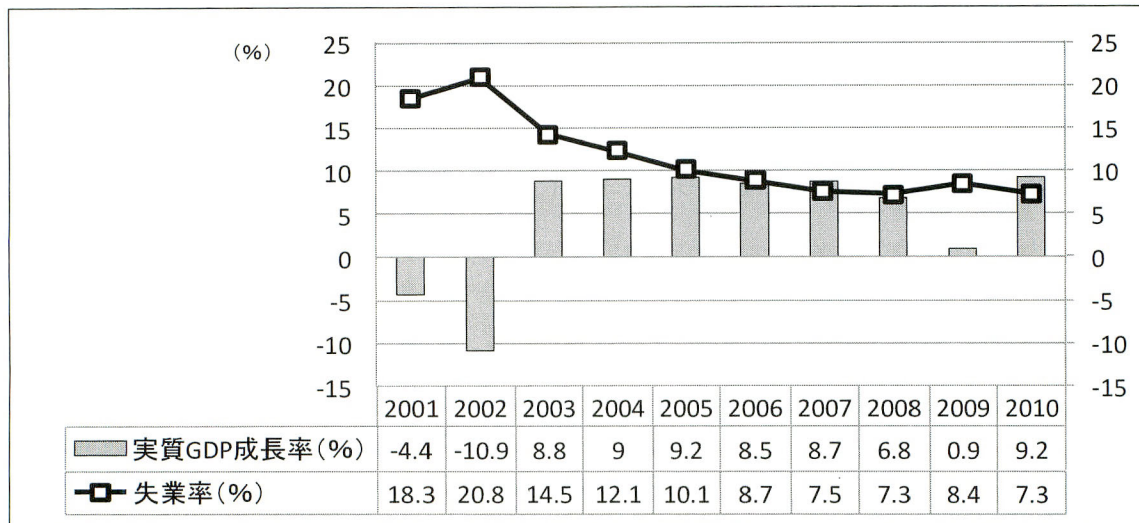


図1 アルゼンチンの実質GDP成長率と失業率

(出所：アルゼンチン国家統計・センサス局 (INDEC) をもとに作成)

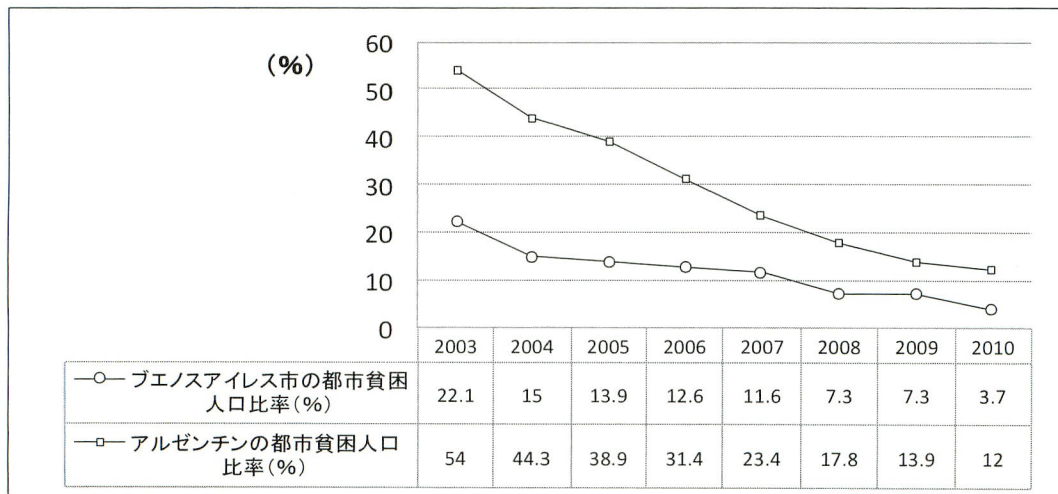


図2 アルゼンチン・ブエノスアイレス市の都市貧困人口比率の変化

(出所：アルゼンチン国家統計・センサス局(INDEC)をもとに作成、比率は第1セメスターの数値のみを使用)

の社会開発課予算11億9712万8500ペソの内訳において、市民社会強化部署の予算は、1億3711万9647ペソ（約360万ドル）で、第3世代（高齢世代）部署の1億5646万4415ペソなどと同等の規模となっている<sup>25)</sup>。また、近年ブエノスアイレス市では、特に創造産業の振興に力を入れている。2008年の市経済における創造産業セクター<sup>26)</sup>の貢献率は、建設（6.32%）、ホテル・レストランサービス（4.99%）などを抜いて、8%であった<sup>27)</sup>。2008年の同セクターの付加価値は175億3500万ペソ（約47億万ドル）になり、2002年から2009年にかけての輸出額においては、4億3700万ドルから23億3500万ドルへと、5倍の成長を見せている<sup>28)</sup>。また、同セクターは1990年から2009年にかけて、新たに6万人以上の雇用を生み出している。市の2011年度予算において、経済開発課予算3億8222万5320ペソの内、創造産業課の予算は952万2000ペソ（約260万ドル）となっている<sup>29)</sup>。ブエノスアイレス市の経済的發展にとって、創造産業の振興は重要課題であるが、同時に社会問題の解決や社会包摂など、社会的發展も重要課題となっており、今後の持続的な社会形成のためには、両者を結びつけていく手だてが望まれていると言える。

#### Ⅳ. デザイン活動を取り巻く状況

近年、ラテンアメリカでは、産業政策におけるデザイン活性化の必要性を認識し、それぞれの国や地域でデザインに関する政策やプログラムが数多く見られるようになってきている。アルゼンチンも例外ではなく、国家によるデザイン振興を行うようになっており、デザイン活動の活発化が市民にも注目を集めるようになってきている。

##### 1. 中央政府によるデザイン政策

2003年産業省産業局に、産業競争力の新しい重要ファクターとしてのデザインを振興させる目的で、国家デザイン計画（PND: Plan Nacional de Diseño<sup>30)</sup>）の政策が導入された。製造分野でのデザインの推進、デザインネットワークの開発、研修やイベント組織化のプログラム開発、国家デザイン計画自体の制度的強化が、その中身である。デザインネットワークの開発については、デザイン会社、教育機関、各地域などを網羅した、オープンで、連携的、非競争的な水平的構造の構築を目指しているのが特徴となっている。PNDのウェブサイトには、研究論文も掲載されており、どのような議論や研究がなされているのかがわかるようになってきている。

国立産業技術研究所（INTI: Insutituto Nacional de Tecnologia Industrial<sup>31)</sup>）は、国のデザインプログラムを実施する機関である。INTIによるデザインプログラム: Prodiseñoは、連携、研修、情報、ネットワーク、研究の分野で実施されている。INTIのウェブサイト内の「デザインを話しながら」というページでは、地域開発、産業におけるデザイン、社会開発、サステナブルデザイン、歴史、マテリアルとプロセス、ユーザビリティと人間工学、イノベーションの項目別に研究論文・事例が掲載されている。多様な分野のスタッフを集めるなど人員が刷新され、デザインの統計、数値化の取り組みもされるようになってきている。国全体のデザインセクターの国内総生産に占める割合は、2004年の0.40%から2007年の0.44%に増加している<sup>32)</sup>。

##### 2. ブエノスアイレス市のデザイン政策やデザイン活動の現状

ブエノスアイレス市は、デザイン活動の中心地であり、国内のデザイン活動のほとんどがここに集中している。ブエノスアイレス大学では、デザイン・建築関係学生が1万4000人在籍し、他に私立デザイン教育機関が30校以上存在する。ブエノスアイレス市は、2005年、ユネスコの創造都市ネットワークのデザインシティに認定された<sup>33)</sup>。市は、デザイン、文化産業、観光の分野がGDPの17%、雇用の16%を担い、国のアパレル産業の5割、文化産業の8割がここに集中している<sup>34)</sup>。デザイン振興の拠点として、2000年に市文化局文化産業課の管轄下<sup>35)</sup>にメトロポリタンデザインセンター（CMD: Centro Metropolitano de Diseño<sup>36)</sup>（写真1）が創設されている。市では、CMD、インキュベーター、デザインフェアのインフラ構築のために、2520万ドル（約25億円）の公共投資<sup>37)</sup>が行われた。CMDは、インタラクティブ・デザイン、製品、ファッション、戦略的デザイン、デザイン・イノベーション研究所（IMDI）、企業インキュベーター（Incuba）、Dorregoデザインフェアなどのエリアで構成されており、年間250万ドル（約2億5000万円）の予算<sup>38)</sup>が組まれている。デザイン主導型産業である衣類、履物、



写真1 メトロポリタンデザインセンター

（2010年12月筆者撮影）



皮革製品のブエノスアイレス市の総生産額は、2003年から2008年にかけて倍増し、約84億ペソ（22億ドル）に達している<sup>39)</sup>（図3参照）。さらに近年、公共空間の向上を目指した都市プロジェクトなど、デザイナーや建築家を巻き込んだ活動が多く見られるようになってきている。ピュアデザインフェアでは、300のブースが開設され、8万人が訪れた<sup>40)</sup>。プロダクトエリアにおけるメガイベントとして、BAND（Buenos Aires Negocios de Diseño：ブエノスアイレス・デザインビジネス）が開催されている。2010年10月には、『国際デザインフェスティバル』が開催され、ヨーロッパ、ラテンアメリカ、南アフリカのデザイン展示やユネスコデザイン都市サミット・オープンパネル他様々な催しが行われた。

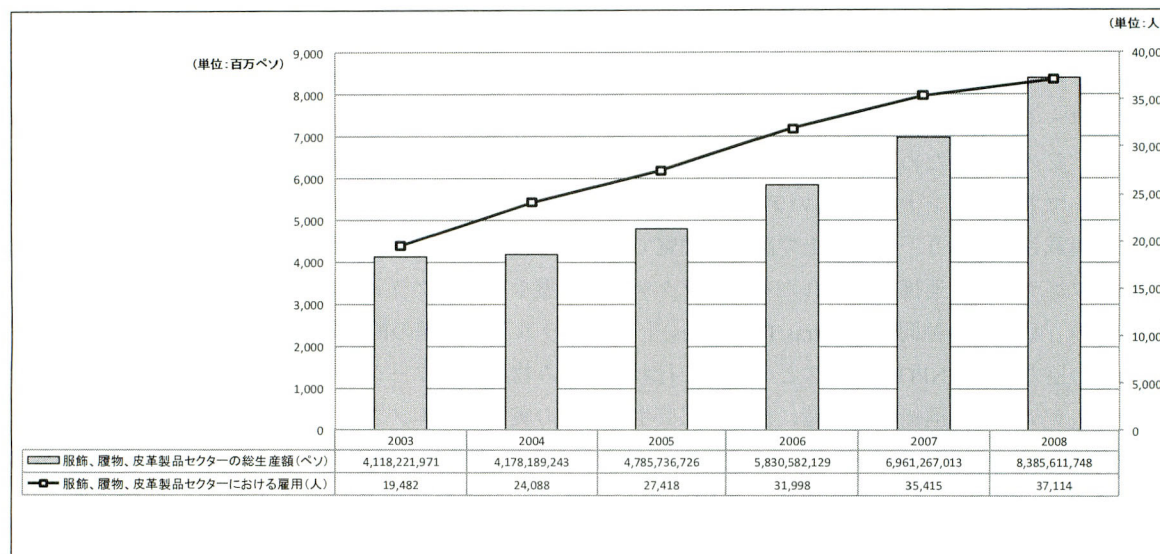


図3 服飾、履物、皮革製品セクターの総生産額および雇用

（出所：Ciudad de Buenos Aires [2010] “Anuario Estadística 2009”, Buenos Airesをもとに作成）

### 3. ラテンアメリカ地域におけるデザイン振興状況

ラテンアメリカでは、地域連携におけるデザイン振興活動も盛んになっている。ラテンアメリカデザイン協会（ALADI: Asociación Latinoamericana de Diseño<sup>41)</sup>）は、1980年に中南米17カ国によって創設され、アルゼンチンに事務局を置き、振興活動を行っている。アルゼンチンが参加するMERCOSUR（南米南部共同市場）においても、ユネスコの協力で家具デザインのコンクール、文化産業振興の取り組みが実施されている。また、2008年、マドリッドのデザイナー協会の後援で、イベロアメリカデザインのビエンナーレ展（マドリッド）が始まった。2010年12月に開催される第2回ビエンナーレでは、デザインの社会的側面を強調した、貧困、社会的排除に対するデザインのアイデアが募集されている。後述するように、国を超えた学術的交流も増加している。

## V. デザイン関係活動におけるネットワークの展開

中央政府や都市レベルによるデザイン政策の推進、デザイン産業、デザイン活動の活発化が見られるアルゼンチンの中で、近年、様々なタイプや目的のデザイン活動に関わるネットワークの存在が目立っている。ここでは、ブエノスアイレスを中心に進んでいるデザイン関係活動のネットワーク化について社会的持続可能性を高めるものとして注目し、いくつかの事例を取り上げ、その目的や内容について見ていく。事例については、現地でのインタビューによる調査を中心に、現地での入手資料や他のラテンアメリカ諸国のデザイン関係者への取材や当該ウェブサイトにおける説明などを基に記述した。

### ①RED

REDは、ブエノスアイレス大学・建築・デザイン・都市計画学部のBeatriz Galán教授を中心とした実践的研究（Investigación Acción：アクションリサーチ）の学術交流ネットワークである。1989年頃から、スイスの大学との協定を発端として、市民社会組織、政府プログラム、マイクロ企業関係へのデザインの技術協力を行っていた。1999年から2003年までは、地域・社会開発を目的とし、社会的経済や市民社会と連携したオフラインのパイロットプロジェクトとして展開していたが、2004年からブエノスアイレス大学の科学技術プロジェクトの資金を得て、デザインの技術支援の経験の交流を促進するためのプラットフォームとしてウェブ上にREDを創設し、ネットワークを通してプロジェクトを発展させるようになった。

代表研究者としては16人程度であるが、学内では4つのゼミ、国レベルでは9つの研究、イペロアメリカレベルでは8つの研究連携ネットワークを形成しており、ウェブサイトには月7000件のビジター、5GBのダウンロードがある<sup>42)</sup>。実践経験は、「小規模生産におけるデザイン」「社会的起業のためのデザイン」「環境マネジメントのためのデザイン」「参加的デザイン」「デザインと工芸」「地域開発とデザイン」「イノベーションマネジメント」「新しいテクノロジー」「デザイントランスファーのネットワーク」の研究項目に分かれ掲載されており、ネット上で誰でも閲覧できるようになっている。実践例には、政府基盤省のスラム改善プログラムとの連携で行われたインタラクティブ模型やピクトグラムの開発、ブエノスアイレス市社会開発局の「私たちの仲間（Nuestras Familiares）」プログラムとの連携の簡易店舗の提案、社会的企業の製品開発への協力、宗教NPOカリタスとの連携で行われた編み物工芸のワークショップ、社会開発省の募集によりマノスデデルタ協同組合と一緒にいった工芸生産ラボの実施、ブエノスアイレス市の社会プログラムの技術的支援活動、セラピーサービス、病院、社会的企業などと連携した障害者による生産活動への協力<sup>43)</sup>などがある。プロジェクトでの連携は、国立陶芸研究所、大統領府文化局アルゼンチン伝統工芸市場、Prodiseño、パッケージ研究センター、エクアドールの皮革商工会議所やメトロポリタンデザイン研究所などの公的機関・プログラムから、マイクロ企業、社会的企業、NGO、生産協同組合、財団まで多岐にわたっている。

### ②Foro de Escuelas de Diseño

Foro de Escuelas de Diseño（デザイン教育機関フォーラム<sup>44)</sup>）は、ラテンアメリカ・ヨーロッパのデザイン教育機関による学術交流のネットワークである。2006年、私立のパレルモ大学デザイン・コミュニケーション学部<sup>45)</sup>主催によるラテンアメリカ・デザイン・エンカウンター「デザイン・イン・パレルモ」において創設された。フォーラムは231機関、319人で構成される国を超えた大規模なネットワークを持っており、研修、連携、経験の交流を目的とする毎年恒例のエンカウンターでは、ラテンアメリカとヨーロッパの20カ国以上から8000人近くが参加している。デザイン・コミュニケーション学部によって運営されているフォーラムは、Oscar Echevarría学部長が代表者となっているが、フォーラム（エンカウンター）のみを担当するコーディネーターがいて、その企画運営に当たっている。ネット上で様々な情報や資料を提供する他、半年毎にエンカウンターの成果“Actas de Diseño”も出版されている。第2回エンカウンターでは「デザインと社会」「デザインと経済」「デザインと教育」「デザインとアイデンティティ」「デザインとテクノロジー」「デザインと認識論」の委員会に分かれ、発表が行われている。例えば2009年のエンカウンターの発表内容には、ALADI会長Paolo Bergomiによるコミュニティ活性化のトラプロジェクト、INTIデザイン部署長であるRaquel Arizaによる社会的経済と連携したサステナブルデザインのプロジェクトなども含まれている。2010年、第5回エンカウンターでは、この取り組みからは初めてのラテンアメリカデザイン教育の学術団体が誕生した。学術的ネットワークではあるが、誰でも参加でき、参加費は無料である点も特筆すべき点である。また、学生、卒業生によるデザイン製品の展示販売の「私たちのデザインフェア」や、パレルモ地区の120のブランドが参加する「良いデザインはパレルモにある」のイベントなど、エンカウンターと同時開催することによって、地域やデザインコミュニティの活性化に貢献している。大学関係の学術的ネットワーク



としては他に、DiSUR<sup>46)</sup>、InfoDESIGN<sup>47)</sup> などがある。

### ③Diseño Club

Diseño Club (デザインクラブ<sup>48)</sup>) は、工芸的な製品作りをしているラテンアメリカのデザイナーの紹介や取引を主な活動にしたネットワークである。アイデア意見の交流、デザインの仕事の募集の情報提供など、多目的な場もインターネット上に提供している。デザイナーの作品展示・販売を推進する目的で2003年創立、200人の構成員によって運営されている。2001年の経済危機によって仕事を失い一人で活動していたデザイナーたちを見て、ネットワークの必要性を認識したAngeles Behoteguigaが中心になって創設した。創設にあたっては、とにかく仕事を創出することを第1の目標にした。デザイナーとユーザー・消費者との強い結びつきを第一にしており、本当に興味を持ってくれるクライアントひとりひとりにそのデザイン製品を届ける媒介となっている。アクセサリー、バッグ、オブジェ、子供用品、男・女性服、ランジェリー、編み物、靴などを取り扱っているが、品質のレベルを守るため、面接を行っている。オリジナルであることを重視し、類似した製品は提供しない仕組みを維持している。参加している個々のデザイナーは、その製品を展示し、販売するためのオンラインスペースをそれぞれ所有するとともに、独立クリエイター、大学生、生産者、ディベロッパー、起業家、商店経営者、観光者、デザイン愛好家などとのつながりを生み出している。クライアントにはヨーロッパの愛好家も含まれている。ユーザーに対しては、イベントや、注目デザイナー、製品見本、推薦サイトなど、デジタルニュースレターを送るなどの他、デザインや写真などのサービスも提供している。サイトでは、デザイナーのインタビュー記事も掲載され、デザイナーの考えや姿勢がわかるようになっている。また、ネットだけでなく、フェアへの参加やショールームでの展示販売も行っている。今後は地方での販売を目指しており、構成員に対しては、少数グループでの交流も計画されている。オンラインでは、CMD、パレルモ大学、後述のCreatividad éticaなど30以上のリンクを持っている。また、ラテンアメリカ・デザイン・エンカウンター2010へ参加し、その活動について発表している。他に独立デザイナー関係では、DISEÑO para VOS (あなたのためのデザイン<sup>49)</sup>)、Beliving Fashion Day (ビーリビング・ファッションデー<sup>50)</sup>) などがある。

### ④Contenidos de Diseño

Contenidos de Diseño (デザインコンテンツ<sup>51)</sup>) は、2009年につくられたデザイナー起業家連合(Asociación de Diseñadores Emprendedores)で、30人のデザイナーで構成されている。その多くがCMD主催のDorregoデザインフェアに出品参加し、そこで知り合ったメンバーである。民主、自主、非利益を原則に、集团的包摂的な社会・経済開発や、自立的持続可能性を持った運営を目指し、量販回路によらない、独自の工芸的な製品を提供するためにネットワークを形成している。起業家デザイナーの包摂、協同組合的なシステムのもとでのディベロッパーやクライアントと連携した仕事や輸出戦略などのネットワークを創出・維持、制限された消費による民主化、フェアトレードなどエコロジー的社会的にも責任を持った製品づくり・販売を通して責任感ある消費者をつくっていくこと、社会的企業や協同組合、NGOなどとの連携などが具体的目標となっている。最初は、デザインフェアを開催する場を創出するため、何人かのデザイナーが工房に集まることで活動が始まった。それまではデザイナー同士話し合う機会がなかったが、一緒にいることで、独立して仕事をするための様々な課題が「グループセラピー」のような形で議論されるようになった。投入物の購入、ディベロッパーとの交渉、予算の割当、イミテーションの出現への対応など、ほとんど皆同じ問題を抱えていることがわかった。経験の交流、工芸家、ディベロッパーやクライアントとの団体交渉、生産・販売および研修スペース、プロモーションウェブサイトなどが、ネットワークによって生み出されている。また、共同での物資購入、設備の共同活用などによる経費の削減、共同でのアイデア創出、集団であることにより、テーマによるコレクションのイベントを計画することができるなども利点となっている<sup>52)</sup>。

## ⑤FOROALFA

FOROALFA (アルファフォーラム<sup>53)</sup>) は、ウェブサイト为主要対象とするデザインの理論的、イデオロギー的内容に関する議論の場を提供するネットワークである。アルゼンチンのグラフィックデザイナー Luciano Cassisi、Raúl Bellucciaを代表として創設された。ラテンアメリカ、スペインの執筆者213人によって運営されており、アルゼンチンを中心として、世界中に5万人近い登録者を有している。2005年よりウェブサイトでは毎週新しいニュースや記事などが提供されているとともに、記事、デザイン事例、ディベートなどのコーナーで構成され、登録者は誰でも議論やコンテンツの創出に参加できるようになっている。記事は技術的、方法論的なものではなく、デザインとそれに係る社会生活、文化、独自の教育、専門実践についての理論的なものやイデオロギー的な内容のもの、デザイン事例は、解決方法の新規性、高い品質のもの、文化的、社会的、技術的に優れた価値を持っているものを対象としている。例えば、2010年7月26日のディベートのコーナーでは33種類のテーマが掲載されており、「デザインとは何か」「デザインはアートか」「デザインは独自の目的を持っているか」など哲学的、倫理的な内容についてのものから、「デザインの価値を高めるために何をすれば良いか(143の意見あり)」「雇用されているデザイナーは1ヶ月いくらの給料をもらっているか(358の意見あり)」「FIFA2010のシンボル・ロゴのデザインは良いか(321の意見あり)」の身近な内容までが対象となっている。またオフラインで、前衛的なデザインや将来に向けたデザインについてのセミナーや研修も行っている。そこでは、反省会議やディベート、提案のプレゼンテーション、事例報告なども行われ、パネラーだけでなく参加者を巻き込んだ話し合いが行われている。2008年、2009年ともにブエノスアイレスで開催され、学生、教員、デザイン関係者含めて300人以上が参加した。同様のネットワークとして、DISEÑOLA<sup>54)</sup> やNODAL<sup>55)</sup> がある。

## ⑥Creatividad ética

Creatividad ética (倫理的クリエイティビティ<sup>56)</sup>) は、社会へ有効な資源を提供するためにつくられた、デザインにおけるクリエイティビティの普及のための市民連合組織のネットワークである。クリエイティビティの普及、分析、議論をするためだけでなく、研究活動を推進し、文化の交流を実現するための開かれた場であることを目指している。持続可能な発展のためのデザインのフォーラムや展示会、講演会なども実施されている。2007年、ブエノスアイレス市にNPOとして創設された。会長のVeronica Ciagliaを中心に、13人のメンバーに加え、35団体が関与している。共同創設者のLuciano Alcaláはデザイン分野を専門とする弁護士として、著作権問題や法整備の情報を大学の講座や講演を通して普及している。また、メルコスール・ユネスコ主催の創造産業振興フォーラムCREATEなどにも企画協力した経験があり、現在南米諸国のデザイン振興政策の交流やネットワークの形成にも取り組んでいる。デジタル雑誌を発刊しており、サステナブルデザインやインクルシブデザインなどの記事が、ウェブサイトからダウンロードできる。ブログや他のネットワークへのリンクが多く、サステナブルデザインやデザイン産業についてのフォーラムも開催されている。2010年5月、このNPOとコロンビア国立大学、ブエノスアイレス市のCMDの共催、ウルグアイデザインクラスターの協賛によって組織された「公共政策とデザインの国際エンカウンター」が開催された。ラテンアメリカのデザイン政策マネジメントの様々なモデルの経験を共有することやデザインと公共政策のマネジメントの知識の移転の場を生み出すこと、デザインの公共政策のための推奨や原則に関する文書の作成などが目指されている。同様のネットワークとして、Raiz Diseño<sup>57)</sup> などが存在する。

## Ⅵ. デザイン関係活動のネットワーク化の特徴と社会的持続可能性における意味とその背景

ここでは、事例に上げたネットワークについて、社会的側面を中心に持続可能性から見た意味について、その背景も踏まえながら明らかにしていく。



## 1. 各ネットワークが創出しているデザイン関係活動における機能・効果と共通する特徴

前節で取り上げた①から⑥までのネットワークはそれぞれ異なった規模や目的を持っており、様々な機能や効果を創出している。これらのネットワークは、デザイン教育・研究、デザイナーによる起業、ジャーナリズム、デザイン政策と網羅され、その活動はデザインと関係する全ての領域に亘って展開されていることがわかる。またこれらのネットワークは、新しいタイプのデザイン関係活動を成立させるものとなっている。

①REDの場合、社会開発や地域開発のためのデザイン活動を社会的に定着させるプロジェクトを促進する役割を担っている。つまりネットワークの存在が、社会的問題の解決や社会全体の利益を目的とするいわゆる社会的デザイン<sup>58)</sup>の実践を促進するものとなっている。また同時に、デザイン技術の移転が推進されることにより、それまでデザイン活動と縁がなかった地域やコミュニティ、グループ、個人に、生産販売を含めたデザイン活動を促す要素となっている。そのため、デザイン活動者の人的拡大、多様化を促していると考えられる。ネットワークの規模はそれほど大きくはないものの、ネット上で様々な経験を交流することにより、従来の学術交流とは違い、一般社会に開かれたものとなっている。さらに、ネットワークは研究や教育に、社会や他大学、海外と連携した新たなシステムを生み出す触媒となった。社会的デザインをデザイン専門教育の中に取り入れることが容易になり、研究分野でもネットワークによる交流、共同研究、研修生の導入など、参加型アクションリサーチと呼ばれるメソッドを確立させることになった。大学の役割やシステムから見ると、より社会とつながった教育研究システムへの改革を促し、一般・地域社会に直接的貢献できるものとなっている。

②Foro de Escuelas de Diseñoは、デザインという比較的新しい学術を振興させる役目を担っているが、そのための交流の場を生み出している。ラテンアメリカを中心とした国際的なネットワークを通して、8000人近くの関係者がエンカウンターに参加している。従来閉鎖的になりがちな学術交流が、ここでは無料化や交流自体を重視するその姿勢を特徴として、開かれた場を創出しており、学術の大衆化とも言える変化を生み出している。例えば、エンカウンターの内容に含まれるパレルモ地区の活性化支援イベントもそのひとつである。従来の学術的枠組みを超えた姿勢が、大規模な取り組みを生み出しているのであるが、1つの大学が企画運営するのは困難であるイベントを、国を超えるネットワークによって実現させているのである。内容は異なっているものの、①REDと同様、大学という専門教育研究機関としての従来の役割を、より直接的に一般・地域社会に貢献するものに変化させていると考えられる。

③Diseño Clubのネットワークは、仕事や経済的利益の創出、展示販売の場の確保、経費節約などのネットワークが創出するメリットをデザイナーが直接得られるものとなっていることから、一人では困難なデザイン活動や起業を支え合う働きを持つと同時に、デザイナー一人一人のコンセプトやクリエイティビティを生かした多様なデザイン活動を成立させる働きを持っている。ネットワークの存在により、デザイナーとしての活動が確保されるのであり、デザイナー起業につながる場を提供しているのである。

④Contenidos de Diseñoは、デザイナー起業家同士の相互扶助を目指すものであり、協同組合とも言える機能をもっている。一人一人のデザイナーではできない集団活動や取り組み、議論を通して、様々なメリットを享受している。フェアトレードや社会的企業との連携を目標とした活動を通して、社会的デザインをネットワークの中で推進していると言える。また③Diseño Clubと同様に、インハウスデザイナーでは実現が難しい、デザイナーのコンセプトやクリエイティビティを重視した多様なデザイン活動の実現に寄与していると考えられる。

こうしたデザイナー起業家の存在は、2001年の経済危機後急増し、現在では、パレルモソーホー（写真2）と呼ばれるデザインブランドの集積地区などを生み出し<sup>59)</sup>、観光分野にも影響を与え、アルゼンチン経済に寄与している。INTIのテキスタイル開発研究センターがアンケート調査を基に2010年に発刊した『アルゼンチンにおける作家の服飾デザイン』によると、服飾デザイン中小零細企業の85%は、2001年以降の創立であり、直接雇用756人、期限雇用650人、間接雇用2500人を生み出している。直接雇用の73%が2～10名の従業員



員規模で、49%が独自の工房を所有している。創造産業としてのデザインは、5人以下の従業員数の企業でも成立することから、デザイナー起業家によるデザイン活動は、今後の新しい産業を牽引する力となるものとして、成長が期待されている。このような現象は、大量生産・消費型ではない産業・経済システムを生み出すことにつながり、①REDなどによる社会的経済への貢献と合わせて、経済システムの多元化を促す要因になっていると考えられる。

⑤FOROALFAのネットワークでは、デザインジャーナリズムの場が参加者全体により創出されている。展開される議論は、デザイン関係者を対象としながらも一般社会に開かれたものとなっている。ジャーナリズムは本来社会的役割をもつものであるが、デザインという特殊性の中で、デザイン分野のジャーナリズムは、現在まで社会的に広がりを持つものではなかった。従来一部のデザイン関係者により生み出されていたデザインに関する言説は、より広く一般社会から生み出されるものとなり、社会とデザイン活動をつなげる機能を持っていると言える。インタラクティブで直接的な意見のやりとりを可能にするネットワークによる場は、既存のデザイン雑誌や書籍とは一線を画す開かれた構造になっている。

⑥Creatividad éticaは、社会的な側面も考慮するサステナブルデザインの推進をしており、ネットワークの存在は、社会的デザインの普及に寄与していると考えられる。また、デザイン活動における公共政策の重要性を自覚しており、広く市民にデザイン政策のあり方を考える場を創出している。国を超えたネットワークの連携活動によりその力量を高め、デザインの公共政策という従来政府などがトップダウンで行ってきた領域に、市民社会からのアプローチにより変革を迫るものとなっている。デザイン史研究者の菅靖子は、「国家機関や企業のほんの一握りの人びとによってデザイン政策が左右されるがゆえに、デザインとは力強い反面、もろいものでもある<sup>60)</sup>」ことを指摘している。デザイン政策は、社会にも大きな影響を与えるものであるが、その策定運用は一般市民に開かれている訳ではなく、事例に見られるような市民社会組織としての活動はほとんど見られなかったのである。

ネットワークによるデザイン関係活動の機能・効果をまとめたものが表1である。



写真2 パレルモソーホーの一角

(2010年12月筆者撮影)

## 2. デザイン関係活動におけるネットワーク活用の意味

次に、前節で示したネットワークの特徴や機能・効果についての共通点を整理することによって、デザイン関係活動におけるネットワーク活用の意味を、社会的な持続可能性という観点から明らかにする。

第1に、前節で言及したように、デザイン関係活動におけるネットワークは、社会的デザインを促進する要素となっている。社会的デザインは、社会問題の解決などを目的としているため、売れるためのデザイン活動と異なり、その主体やインセンティブが限定される。通常のデザイン活動者は企業に雇われたり企業と契約しているデザイナーであり、企業は社会問題の解決などではなく、自社の利潤追求の手段としてデザインを活用している。社会的デザインの実践は、倫理観だけがインセンティブになっており、それを目指す人が圧倒的に少ない。また、デザイナー一人一人が社会的問題を解決しようと考えても、実践のノウハウや情報の欠如のため、実践には限界がある。また、一人では、実践を継続していくには、かなりのインセンティブや意思の強さが必要となる。そのような問題を克服する要素の1つがネットワークであり、社会的経済の実践と同様、ネットワークが、お互いのインセンティブや意思を支え合う連帯感や構造を生み出すことで、活動を拡大・維持させているのである。社会的デザインの実践は、社会的不平等や社会的排除などの社会問題を緩和するものであり、社会的経済の実践と同様、民主、平等、連帯、参加などの価値観によって推進さ



表1 ネットワークによるデザイン関係活動の機能・効果

ネットワーク	組織・目的・代表・規模	ウェブサイト	機能・効果
①RED 2004~	大学 研究実践の交流 代表 B.Galán 16人(研究者)	○	社会的デザインの促進 デザイン教育・研究システムの改革 開かれた学術交流の場 デザイン活動者の多様化 社会に開かれたデザイン機関
②Foro Escuelas de Diseño 2006~	大学 研究実践の交流 代表 O.Echevarría 319人	○ SNS	社会に開かれたデザイン機関 開かれた学術交流の場の創出
③Diseño Club 2003~	独立デザイナー 製品の展示販売 代表 A.Behoteguiga 約200人	○ SNS	デザイン活動者の拡大 デザイン活動の多様化 デザイナー起業家の創出
④Contenidos de Diseño 2009~	デザイナー起業家 相互扶助 代表 G.Langg 30人	○ SNS	デザイン活動の多様化 社会的デザインの促進
⑤FOROALFA 2005~	デザイン関係者 議論の場の創出 代表 L.Cassisi, R.Belluccia 213人(登録者5万人)	○ SNS	開かれたデザインジャーナリズム の場の創出
⑥Creatividad ética 2007~	NPO サステナブルデザイン の振興、デザインに係る 公共政策の研究・議論 代表 V.Ciaglia 13人+35団体	○ SNS	デザイン政策を考える場の創出 社会的デザインの促進

筆者作成

れている。また、社会的デザインは、社会全体の利益を優先するものであり、平等性という意味で、デザイン活動がより平等に人々に恩恵を与えるものとなっている。つまりそれは、デザイン活動自体がより民主的になったということを示すものであると考えられる。

第2に、デザイン関係活動におけるネットワークが、不特定多数の外部に開かれた議論の場や協同の場を創出していることである。これらのネットワークに共通する特徴は、全てが、インターネット上にウェブサイトを持っていることであるが、ウェブサイトの存在によって、組織の活動や情報が可視化され、誰でもアクセスできるオープンなネットワークになっているのである。またそのほとんどが、facebookやtwitterなどのソーシャルネットワーキングサービス（SNS）やブログサイトなどいわゆるウェブ2.0を活用しているため、ビジターの意見が活かされる、インタラクティブな交流の場を創出しているのである。そこでは、発信者も、受信者も、フォーマルな組織も、個人も水平的な関係で結ばれていることから、ヒエラルキーのない、

より平等性の高い構造が形成されていると考えられる。さらに、インターネット活用によるネットワークは、時間や空間の制約を解消しアクセスや情報の共有が容易であることから、国を超えた議論や連携も可能にしている。同時に、インターネットの活用は、地域独自のイベントなど、オフラインの活動につながっている。つまり、これらのネットワークはインターネットと同様に、社会に広がっていく性質を持っているものであり、開放的、相互的、水平的な構造を特徴としているということである。その開放的、相互的、水平的構造によって、デザイン活動、デザイン教育・研究、デザイン政策、デザインジャーナリズムの全てにおいて、より外部に開かれた議論の場や協同の場を創出していると考えられるのである。ネットワークが、ウェブサイトやSNSの特質を通して、より多くの関係者や一般市民のデザイン分野への参加を促すものとなっていると同時に水平的・平等的構造を持っていることから、より民主的な議論や協同の場になっているのである。従来は多くの事例でデザイン活動を中心的に担ってきたのは大企業であり、デザインの方向性や議論の場は、一部の企業や一部のデザイン関係者が作り出すものであった。経済のツールとしてのデザイン活動に必要であったのは競争原理であって、連帯原理ではなく、社会全体やより多くの人が参加できるような、デザインについての民主的な議論の場や協同を必要としなかったのである。

第3に、デザイン関係活動におけるネットワークが、市民社会セクターに貢献しているということである。ネットワークが、市民社会を巻き込んだものとなっているだけでなく、ネットワーク自体が市民社会組織もしくはそれに準じる存在になっているのである。市民社会活動は、民主的な社会を構築するための要素として、特にラテンアメリカでは、注目されている動きである。かつてのデザイン活動は、主に市場セクターの発展に貢献してきた。デザイン関係活動と市民社会組織の連携は、デザイン活動を市民が主体となる民主的な社会構築の要素に組み入れるものである。

第4に、デザイン関係活動におけるネットワークが、デザイン関係活動の主体、つまりデザイン活動者の人的拡大・多様化につながっているということである。近代デザインは、大量生産による消費の大衆化の思想を背景に始まった。大量生産のシステムにより、誰でも同じような物が安価に手に入る事が民主化の一つの側面であると考えられたが、結果的には、デザイン活動が一部の企業や先進国の独占となっていく側面がある。そのような構図は、市場競争の激化や格差を含む様々な問題を生み出すことにもつながった。大量生産・消費型、利潤追求型のデザイン活動は、それ自体決して民主的ではなかったのである。デザイナーによる起業や社会的デザイン活動は、デザイン活動の主体を多様化、拡大するものであり、大量生産・消費型、利潤追求型の対極にあるものと捉えることができる。従来ごく一部の関係者によって作り出されていたデザイン政策やデザインジャーナリズムは、ネットワークにより、アルゼンチンでもより多くの関係者や一般市民の参加を促すものとなっている。デザイン活動の主体の人的拡大・多様化は、参加型のより民主的な活動になっていることを示すものである。

これらのことが示しているのは、デザイン関係活動におけるネットワークが、市民社会活動に貢献しつつ、社会的デザインの実践やデザイン関係活動者の人的拡大・多様化を促進させ、デザイン関係活動における開かれた議論や協同の場を創出している構図である。このようなデザイン関係活動によって、デザイン活動自体のあり方が、より民主的なものへと変化していると考えられることから、デザイン関係活動におけるネットワークの活用が、デザイン活動の民主化と言える状況を生み出す要因になっていると考えられる。デザイン活動の民主化は、同じ目的や利益を共有する関係者間の信頼関係や互酬関係など、社会関係資本に相当する人間関係を生み出すものとなっており、新しいタイプの自発的な協同によるデザインコミュニティや国を超えた信頼関係のデザインコミュニティの成立を伴っている。また、デザイン活動の民主化の要素となっている社会的デザインは、①REDの実践のように地域コミュニティの再生を促すものも含まれている。つまりデザイン活動の民主化は様々なレベルで社会関係資本をより強固なものにしていると考えられるのである。

デザイン活動の民主化は、上に述べたように、社会関係資本の強化に貢献していると考えられることから、社会的な持続可能性を回復する要素になる可能性が高い。また、社会的デザイン活動は、直接社会問題を緩和するものであり、社会的な持続可能性に貢献している。つまりデザイン関係活動におけるネットワークの



活用は、デザイン活動の民主化と言える状況を生み出しており、社会関係資本を強化する一方で、社会的な問題の解決に貢献していることから、社会を安定させ、社会システムをより持続可能なものに変化させていくと考えられるのである。

### 3. ネットワーク化の背景とデザイン活動の民主化

このようなデザイン分野におけるネットワークの活用が、数多く急激に見られるようになった背景、つまりデザイン関係活動のネットワーク化が進んだ背景には、様々な理由や要因が考えられる。

第1に、ICTの発達とその活用である。インターネットの発達のおかげで、設備や費用の制約がなくなり、一個人が情報を発信したり、協力関係を築くことが容易になった。特に、ウェブ2.0と呼ばれる双方向型システムやSNSの浸透以降、ネットワークの創出やその参加が容易になった。ラテンアメリカでは、facebookなどのSNSを通して、様々なデザイナーコミュニティが急速に創出されている。ラテンアメリカでは、「友達の友達」によるつながりは実生活においても重要であるが、ネット上では、瞬時に国を超えこのような関係が結ばれ、また、インターネットのこのような関係を通して、地域のイベントや集まりが起こるきっかけをつくっているのである。2001年の経済危機の時に、預金口座封鎖などの政府の対応に対する抗議活動が大きく広まった要因の1つは、インターネットであったことは有名である。350万人のユーザーを擁するインターネットコミュニティの中で、何百というeメールの連鎖が起こり、通りで鍋や蓋を叩きながらの政府に対する抗議活動が組織化されたのである。参加集団は、ミーティングでのディスカッションに加え、インターネット上で電子フォーラムを創出し、ミーティングに参加できない人々にも情報を提供することになった<sup>61)</sup>。前述したように、ネットワークによるデザイン関係活動の機能・効果は、インターネットの構造的特徴によって促されている側面が強い。ウェブサイトはネットワークの活動をより広く一般社会に知らせる機能を持っており、その機能が一般社会に開かれた参加型のデザイン関係活動の促進につながっているのである。インターネットの活用によるデザイン分野のネットワークは、近年の特徴的現象であり、特にSNSの持つ双方向性や水平的構造が、デザイン関係活動を通して社会的経済的变化をもたらす要因となっていることは興味深い。インターネットやウェブ2.0については、文化産業における活用など、産業振興にもつながる利点が指摘されている。その反面、犯罪につながったり、かえって現実の社会的つながりを損なうなど、様々な問題も指摘されている。また、グーグル問題など、インターネットの将来に対する懸念も聞かれる。しかし、事例は、誰でも情報を発信でき、意見を交換することができる新しい技術が、デザイン分野のネットワークを創出させ、デザイン活動の民主化に寄与したことを示している。

第2に、社会的経済の実践を含む市民社会セクターの活動の影響が存在する。アルゼンチンでは、市民社会の諸組織による活動が活発化しているが、その性格上ネットワークの形成とその活用が不可欠であり、行政もネットワークを支える政策を行っている。社会的経済の関係では、社会開発省管轄下に、アソシエーション主義と社会的経済の研究所<sup>62)</sup>があり、協同組合や相互扶助組織など、社会的経済活動を促進するためのプラットフォームとなっている。また、ブエノスアイレス市でも、社会開発局に、社会的経済課が設置されており、雇用支援や職業訓練など、経済的・技術的支援を提供している。市民社会の組織間と国家・市民社会組織間の調整を行う機関である国立コミュニティセンター<sup>63)</sup>や、ブエノスアイレス市組織情報センター<sup>64)</sup>なども存在する。社会的連帯的経済の研究や振興のためのNGOとして、社会的経済研究センター<sup>65)</sup>やラテンアメリカ社会的連帯的経済の研究者ネットワーク<sup>66)</sup>など多く存在する。このような市民社会組織の存在が、デザイン活動と市民社会運動や社会的経済の実践をつなげるものとして機能し<sup>67)</sup>、デザイン関係者にもネットワークの有用性を気づかせ、デザイン分野のネットワーク化を進めたと考えられる。Pedro Senar<sup>68)</sup>が指摘するように、「アルゼンチンや他のラテンアメリカ諸国では、80年代末から、デザイン分野の実践で、排除されたセクターの生産活動への協力が始まっており、21世紀に入って以降、このような経験は、様々な公的プログラムや市民社会組織、社会的経済の実践との連携によって、増加するとともに多様化してきている」のであり、デザイン活動と市民社会活動の接点が、デザイン関係活動のネットワーク化を促進さ

せたと考えられる。

第3に、関連する政策やプログラムにおけるネットワーク活用の傾向、ネットワーク化である。前述のように、中央政府のデザイン政策は水平的でオープンなネットワークの活用を進めている。また、ブエノスアイレス市のCMDもNPOの「友達ネットワーク」を組織化することによって、その機能を高めようとしている。PNDやINTIのウェブサイトでは、専門教育機関、会社、中小企業ネットワーク、地域ネットワーク、国内外の関係する組織、機関が同一画面上にリンクされている。例えばINTIの国内デザインネットワークの情報源の項目には、NGO組織や中小企業開発プログラムと一緒に⑤FOROALFAや①REDが並んでおり、INTIをプラットフォームにして様々なレベルの組織のつながりが見えるようになっている<sup>69)</sup>。①REDにおける実践のネットワークは、先に示したように、社会政策プログラムとの連携で成立しており、デザイナー起業家や独立デザイナーは、例えば、ブエノスアイレス市の起業家開発プログラムやCNDのインキュベータープログラムなどに関わりを持っているが、これらのプログラムの多くは、ネットワークの中で実践されている。また、前述したように、デザイン関係活動は、ネットワークの強化を進めている社会的経済や市民社会組織の政策との接点も多いのである。このような環境や接点が必然的にデザイン関係活動における様々なネットワークの創出につながっていると考えられる。

第4に、大量生産・消費型、利潤追求型などの主流のデザイン活動に対するオルタナティブなデザイン活動を求める動きである。現在までのデザイン活動に対する反省と新しいデザイン活動のあり方を模索する動きは、近年の世界的な傾向であるが、特にアルゼンチンは、新自由主義経済改革により劇的なダメージを受けた国であるため、その模索は、強いインセンティブを伴っている。2001年の経済危機は、オルタナティブなデザイン活動を求める動きにとっても重要なきっかけとなっているのである。Galánらは、「アルゼンチンを襲った経済危機は、新しい形式や社会的仕組みの発生という新しい状況を生み出し、社会的メディアへのデザインの技術移転や研究、教授法において、興味深く、実りのあるシナリオをつくった<sup>70)</sup>。」ことを指摘しているが、オルタナティブなデザイン活動を模索せざるを得ない状況があったことを物語るものである。またアルゼンチンで模索されているこれらのデザイン活動は、その多くが社会問題解決などの社会的目的を持ったデザイン活動であった。これらの新しいデザイン活動は、少数派のオルタナティブな活動であるために、連帯・協同の装置であるネットワークを必要としていたのである。また、デザインイベントEXPO DISEÑO CON ACENTOのディレクターであるDiego Javier Gómezは、「2001年の経済的荒廃の中で、アルゼンチンデザインがパラドックス的にチャンスを迎えることになったが、最大の進展は独立デザイナーで、有限会社や小企業を生み出していった」と指摘している<sup>71)</sup>。危機の苦境を乗り越えるため、デザイナー起業というオルタナティブなデザイン活動のあり方が模索されたが、その実現にはデザイナー間のネットワークが重要な役割を果たしたと考えられる。事例に挙げたネットワークは、力を結集するシステムとして機能し、目的に応じた環境、場を作り出す装置となっているのであるが、その多くがオルタナティブなデザイン活動を模索し、構築するためのネットワークとなっているのである。

これらの4つの背景は、デザイン分野でのネットワーク創出を促す要因となっているが、記述してきたように、お互いがそれぞれ密接な関係を持っているとも言える。政策は市民社会や社会的経済の活動を支え、ICTの発達は、市民社会・社会的経済、政策、オルタナティブなデザイン活動に影響を与え、オルタナティブなデザイン活動の追求は、市民社会や、政策とのリンケージの中で行われているのである。例えば、パレルモ大学デザイン・コミュニケーション学部は、2010年4月、「デザイン、ソーシャルネットワークと新しいテクノロジー：連帯2.0の新しいパラダイム」と題する講演集会を開いている。ディベロッパー、デザイナー、技術起業家、市民社会組織の統合・協力の空間を促進する目的の催しであるが、ここではオルタナティブなデザイン活動が、インターネット技術、市民社会組織に密接に関わっているということがわかる。背景となっている事柄もお互いに密接に関わっているのである。そしてこれらの要素が影響し合いながら、デザイン分野のネットワーク化を促進し、そのことによってデザインの民主化を促進していると考えられるのである(図4参照)。



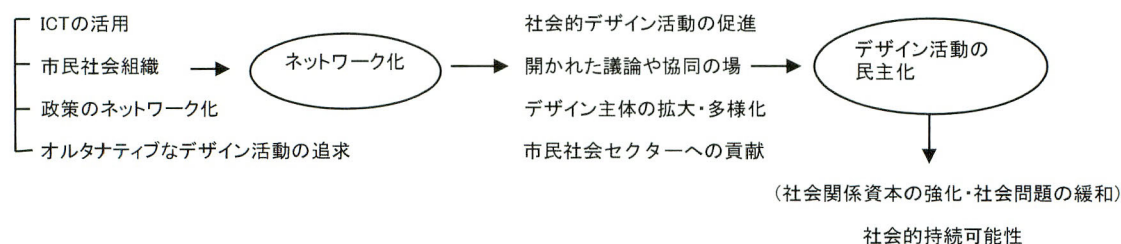


図4 ネットワーク化によるデザイン活動の民主化とその背景

筆者作成

## VII. デザイン活動の民主化から考察するデザイン活動の可能性

事例は、デザイン活動という無形の文化資本が、ネットワークを活用することにより、より民主的なデザイン活動を成立させ、社会関係資本の強化を促して、社会的な持続可能性を高めていることを示している。また、デザイン活動自身が、持続可能な社会システムを形成する要素となる可能性を示すものである。

さらに、文化的側面から見た場合、事例は、スロスビーが持続可能性の原理として指摘した文化資本の公正・公平な活用や享受であり、文化的側面から見ても持続可能なシステムの形成に貢献するものとして捉えることができる。文化資本が公正・公平に活用されることが、ここでのデザイン活動の民主化である。無形の文化資本であるデザイン活動を公正に活用し、公平に享受できることが、文化資本の民主的活用となり、持続可能な文化システムの形成につながると同時に、持続可能な社会システムの形成につながっているのである（図5参照）。

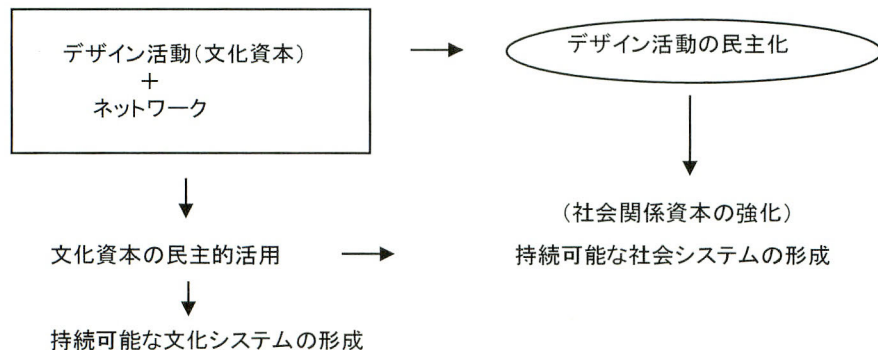


図5 デザイン活動の民主化におけるデザイン活動の可能性

筆者作成

また、スロスビーが同様に指摘する持続可能性に不可欠な視点である「システムの相互依存性<sup>72)</sup>」は、事例によっても確認することができる。文化資本と社会関係資本は、事例が示すように、相互に関係を持っており、無形の文化資本であるデザイン活動がより民主的に活用されることが、社会的な持続可能性につながることを示している。社会的な持続可能性を支えるのは、システムの相互依存性に立脚したデザイン関係活動であり、民主的なデザイン活動や社会的デザイン活動を推進できるデザイン政策や関係政策である。政策の立案・運営にあたっては、事例が示すように、ICTの活用、市民社会の役割、大学の役割は重要な要素として見なされるべきであり、特にネットワークを活かしたデザイナーの活動や開かれた議論の場、学術的交流を推進、支援することが重要なポイントになると考えられる。

## VIII. おわりに

以上述べてきたように、ブエノスアイレス市のユネスコ創造都市のネットワークへの参加や創造都市としての取り組みは、新自由主義型ではない新たな経済社会の発展、都市社会のあり方への転換を目指した挑戦であると言える。このようなオルタナティブな経済発展と都市社会のあり方を目指す創造都市にとって、重要なのは単なる創造産業の活性化のみではない。市民社会の強化や社会包摂、文化的多様性の維持、市民の文化享受能力の向上や文化権への配慮などが重視される創造経済の発展でなければならないと考えられる。佐々木雅幸が提唱する創造都市論においても、非営利セクター、社会包摂、文化的多様性、文化権の確立などは、創造都市であるための重要な要素として位置づけられている。また佐々木は、産業と文化の「創造の場」の要素として、人間的信頼関係を基礎にしたネットワークの結び目の機能に注目し、「自由な非営利組織によって担われたネットワークは草の根からの住民参加を実現して、地域の民主主義を強めることになる<sup>73)</sup>。」と指摘している。事例が示すように、ネットワークを活用したデザイン関係活動は、市民社会を巻き込み、社会包摂の実践を促す要素となるとともに、文化的多様性を生かした製品づくりを促す要素となった。またそれは、市民参加の促進や文化権の保障につながるものでもある。つまり、デザイン関係活動のネットワーク化によるデザイン活動の民主化は、佐々木の提唱する創造都市の構築にとって重要となる市民参加や社会包摂、文化的多様性の維持や文化権の確立に貢献するものとなっているのである。また、デザイン活動は、生活、産業の両面に多大な影響を与えるものであり、都市社会の生活や生産活動を変革するための要素として、ポテンシャルも高い。そのため、デザイン活動の民主化は、創造都市の構築にとって、根幹となるものであり、創造都市政策の中に組み込むべき観点であると考えられる。

CMDでは現在、社会的経済の実践を活動の中に取り入れようとしている。すでに、CMDは、ブエノスアイレス市の社会的経済課との協定で、「ネットワークを縫いながら」という社会経済実践の場を提供し、仕事のない人々に対し縫製技術習得の支援を行っている（写真3参照）。また、2010年7月には、創造的インクルージョンプログラムの中で、セミナー・ワークショップ「もうひとつの経済、もうひとつの技術」などを開催し、社会包摂の取り組みを進めている。さらに、より開かれた情報や意見のやり取りを推進するため、様々なブログスポット設置による、CMD2.0の取り組みも行っている。いずれも、ブエノスアイレス市が創造都市として持続的に発展するために不可欠な取り組みであり、デザイン活動の民主化に寄与するものである。



写真3 CMD内で縫製技術を習得する人々

(2010年12月筆者撮影)

アルゼンチンを襲った社会的経済的危機は、今後の持続可能な社会のあり方にとって教訓となる一方で、多くのオルタナティブなデザイン活動をもたらした。2001年の荒廃の中から、社会的なデザイン活動やデザイナー起業家を生み出していった多くのネットワークは、デザイン活動の民主化をもたらし、持続可能な社会システムへの転換に貢献する可能性を示した。ネットワークによるデザイン活動は、オルタナティブな社会システムへの転換を目指すものであるという点で、産業革命による大量生産＝消費システムの普及が労働の非人間化と生活の質の低下をもたらしたことに異議を唱え、社会変革のための新しいデザイン活動を追求したウィリアム・モリスの試みに通じるものである。モリスが提唱したアーツアンドクラフト・ムーブメントは後世のデザイン関係者に多大な影響を与えたが、他方で、社会変革のためのデザインという思想は後景に退いてしまった<sup>74)</sup>。しかし事例は、市民社会活動の活発化、ICTの進歩などを背景にしたデザイン関係活動のネットワーク化が、開かれた議論の場、学术交流や連帯・協同の場を生み出し、デザイン活動をより民主的なものへと変化させるとともに、社会経済的システムをより持続可能なものに変化させる原動力となっ



たことを示唆するものである。このようなネットワークの広がりの中で、デザイン活動の民主化を実現することが、モリスの思想を現代に再生させるものでもあろう。

本稿で取り上げたアルゼンチンにおける事例の検討を通じて、デザイン活動におけるネットワークの広がり、デザイン活動自体をより民主化させ、民主化されたデザイン活動が、社会システムの変化につながっていく可能性を示していると言えるのではないだろうか。

## 【注】

- 1) グラフィックデザイン、ファッションデザイン、プロダクトデザインなどの総称。
- 2) ここでは、目的を共有し、他の人や組織との共同や協力によって活動の発展を目指す社会的なつながりのことを言う。  
現在までデザイン関係活動において、共通の目的を持ったつながりはなかったわけではないが、ネットワークの有用性を自覚し、積極的につながりを持つとするデザイン関係活動の広がり、近年まで見られなかったことである。
- 3) 社会的経済と連帯経済の相違については議論があるが、ここではブラジルなどで使用する連帯経済と同じ意味で使っている。連帯経済は、自主、民主、協同などを原理とし、自主管理企業、社会的企業、NPO、協同組合などのサードセクターが中心になって実践を展開している、市場原理主義経済に対する代替理論・実践であり、ラテンアメリカを中心に急速に広まっている。他にも異なった呼び方が存在するが、アルゼンチンでは、社会的経済という言葉がより一般的なため、ここでは社会的経済を使うことにする。
- 4) 具体的には、NPO、NGOなどの民間非営利組織、民間政策研究機関、民間財団、草の根住民組織、協同組合などを指す。「市民社会」については様々な議論や定義が存在するが、国家でも市場でもないいわゆるサードセクターとして、ラテンアメリカでは特に、貧しい人々が生き残るために必要なものとして、連帯、相互性、集団性の価値に基づきながら、社会正義、平等、環境への持続性を目指すものと捉えられている。
- 5) Galán [2006] 'Diseño y comunicación para el desarrollo Local'  
(<http://www.investigacionaccion.com.ar/dide/cd/dide/tp/pdfs/ponenciasuba.pdf>)
- 6) Galán [2007] 'DISEÑO ESTRATEGICO Y AUTOGESTION ASISTADA EN BUENOS AIRES; CASOS Y CUESTIONES TEORICAS' Francisco Diaz Granados "Diseño y territorio", Bogota de Colombia, Universidad Nacional de Colombia
- 7) Galán [2007]
- 8) 「デザインの経験の記録所」の頭文字をとったREDという名称は、スペイン語で「ネットワーク」を指す言葉である。
- 9) Galán [2007] 共同研究者のPedro Senarの論文 'Diseño e innovación para el desarrollo del capital social. El caso Manos del Delta. Cooperativa de Artesanos Isleños. Bs. As. Argentina' でも社会関係資本形成の目的のデザインプロジェクトが取り上げられている。(<http://www.unisinos.br/revistas/index.php/otraeconomia/article/view/1062>)
- 10) Bernardo Kliksberg [1999] 'Social capital and culture: master keys to development' CEPAL "CEPAL REVIEW 69", CEPAL [2001-2002] "Social Panorama of Latin America 2001-2002", Santiago de Chile, CEPAL など。
- 11) Hooghe, Mare & Stolle, Dietlind (eds) [2003] "Generating Social Capital: Civil Society and Institution in Comparative" Perspective, New York: Plagrave Macmillian, 篠田武司 [2009] 「社会関係資本と「安心社会」」 篠田武司・宇佐見耕一編『安心社会を創る』新評論など。
- 12) investigacionaccion.com.ar Galánは、2007年～2010年、マルデプラタ大学の研究者と「アクションリサーチネットワークとウェブ2.0」についての共同研究を行っており、ネットワークのインターフェイスの発展を目指している。Diana Rodrigues Barros, Beatriz Galán 'Red Investigacion Accion RED I(a) y la Web 2.0'
- 13) スロスビーは、著書 [2005] 中谷・後藤訳『文化経済学入門』の中で、持続可能性の概念について「その概念の多面的な性質は、持続可能性について唯一の標準的な定義は存在しないことを意味する。したがって持続可能性の考え方は、原理や基準の連鎖として説明されるべきものとして示唆される」としながらも、持続可能性のための世代間公平と動学的効率性の原理について「経済的・社会的・文化的な生活のための文化的基盤が奪われたりすることのないようにすることである」と説明しており、経済的、社会的、文化的な側面を含んでいると解釈される。
- 14) David Throsby [2001] "Economics and Culture", Cambridge University Press, Cambridge, pp.44-60, デビッド・スロスビー

- 一、[2005]『文化経済学入門』中谷武雄・後藤和子監訳、日本経済新聞社、pp.78-102。
- 15) スロスビーは、文化資本を工芸品や建築物などの有形の文化資本と伝統や言語、慣習などの文化的現象を無形の文化資本として規定している。「デザイン活動」という言葉は、「デザインすること」「デザインの行為」という意味で使われており、スロスビーが無形の文化資本と定義している「集団によって共有されている慣習」にあたると考えられる。
- 16) 人口3,988万人、国土面積278万平方km、1816年スペインから独立、主要産業は大豆油、穀物、牛肉、加工食品、自動車製造など。スペイン系イタリア系を中心とする白人97%。政治では、ポピュリズム、国家コーポラティズム、汚職大國などの言葉で形容されることが多く、産業面では過度の農牧業への依存や工業化への失敗などが指摘されてきた。
- 17) 大ブエノスアイレス圏の失業率は、18.9%、貧困人口の比率は54.0%に達した。宇佐見耕一 [2008]「中道左派の結集を図るアルゼンチン・キルチネル政権」P.149 遅野井茂雄・宇佐見耕一編『21世紀ラテンアメリカの左派政権：虚像と実像』アジア経済研究所。
- 18) 地域通貨活用による財やサービスの交換クラブの活動。
- 19) 貧困者や失業者が社会扶助の給付と失業の解消を求めて行った道路封鎖を手段とする運動。
- 20) 銀行口座凍結に対して、銀行や国会前などに集結し鍋や食器類を叩いて行った抗議活動。
- 21) 地域規模で自発的な対話や討論をする近隣住民集会の活動。
- 22) CEPAL [2007] “*Panorama Social de America Latina 2007*”, Santiago CEPAL.
- 23) ラテンアメリカは全体的に都市化率が高く、2000年の都市化率は、ウルグアイ93%、アルゼンチン90%、ベネズエラ87%、チリ86%、ブラジル80%になっている。CEPAL [2003] “*Anuario estadística de America Latina y Caribe 2001-2002*”, Santiago, CEPAL, p.14.
- 24) 1950年に62.2%であった都市部人口の対総人口比が、1990年には86.9%に達している。
- 25) ‘JURISDICCION 45 MINISTERIO DE DESARROLLO SOCIAL POLITICA DE LA JURISDICCION Programa General de Acción y Plan de inversiones Año 2011/2013 y el Presupuesto del año 2011’ [http://estatico.buenosaires.gov.ar/areas/hacienda/presupuesto2011/presupuesto\\_2011/03\\_ley\\_3753/04\\_presupuesto\\_jurisdiccional/Jur45.pdf](http://estatico.buenosaires.gov.ar/areas/hacienda/presupuesto2011/presupuesto_2011/03_ley_3753/04_presupuesto_jurisdiccional/Jur45.pdf)
- 26) 舞台芸術、ビジュアルアーツ、出版、音楽、オーディオビジュアル、デザインサービス、クリエイティブ関連サービス（テレビゲーム、インターネット、建築、図書館、ミュージアムなど）。
- 27) Dirección de Industrias creativas y Comercio Exterior, Ministerio de Desarrollo Economico, Gobierno de Ciudad de Buenos Aires [2010]
- 28) 同上。
- 29) ‘JURISDICCION 65 MINISTERIO DE DESARROLLO ECONOMICO POLITICA DE LA JURISDICCION Programa General de Acción y Plan de inversiones Año 2011/2013 y el Presupuesto del año 2011’ [http://estatico.buenosaires.gov.ar/areas/hacienda/presupuesto2011/presupuesto\\_2011/03\\_ley\\_3753/04\\_presupuesto\\_jurisdiccional/Jur65.pdf](http://estatico.buenosaires.gov.ar/areas/hacienda/presupuesto2011/presupuesto_2011/03_ley_3753/04_presupuesto_jurisdiccional/Jur65.pdf)
- 30) <http://www.pnd.gov.ar/ewb/>
- 31) <http://www.inti.gov.ar>
- 32) Calcagno y D’Alessio [2009] ‘Sobrecrecimiento y valor agregado.La dinamica de la economia cultural’ “Indicadores Culturales/Argentina 2009” <http://www.untref.edu.ar/documentos/indicadores%202009/Sobrecrecimiento%20-%20Francisco%20DAlessio.pdf>
- 33) 認定の理由として、新しい製品を生み出す国内最大の市場となっていること、高付加価値製品の製造が要求されていること、多くのデザインの専門家や研究センターの存在、伝統的にラテンアメリカの文化的中心地であったことなどが存在する。
- 34) CMD ‘Buenos Aires Design City’ [http://portal.unesco.org/culture/en/files/31158/11501842633Bs\\_As\\_candidature\\_EN.pdf/Bs\\_As\\_candidature\\_EN.pdf](http://portal.unesco.org/culture/en/files/31158/11501842633Bs_As_candidature_EN.pdf/Bs_As_candidature_EN.pdf) (2009年10月3日最終確認)
- 35) 現在は、経済開発局、創造産業課の管轄下となっている。
- 36) <http://www.cmd.gov.ar>
- 37) 魚市場であった建物のCMDへのコンバージョンに資金の大部分が充てられた。CMDの存在はそのエリアの悪化した



- 環境を回復する意味も持っている。敷地面積は1万4千平方メートル、1500人収容、3千平方メートルの展示場が含まれている。
- 38) デザインフェアに5千万円、ファッションブエノスアイレスに1億円が当てられた。
- 39) Benos Aires Ciudad [2010], “ANUARIO 2009 Industrias Creativas de la Ciudad de Buenos Aires” Buenos Aires
- 40) CMD ‘Buenos Aires Design City’
- 41) <http://www.disenioaladi.org>
- 42) Rodríguez Barros Diana, Galán Beatriz ‘Red Investigación Acción RED I (a) y la Web 2.0’
- 43) 「社会的企業のための製品戦略；ホセ・ティブルシオ・ボルダ市民病院の職業治療法を背景とした社会的企業Ybytuのためのデザイン開発（Marcos Fiorini, Alvaro Martinez Florez, Ana Siro [2008] ‘Estrategias de producto para una empresa social; Desarrollo de Diseño para Ybytu, empresa social enmarcada en el area de Terapia Ocupacional del Hospital Municipal Jose Tiburcio Borda’  
[http://catedragalan.investigacionaccion.com.ar/trabajos/9151ea09f490a2d3af877ef22dfdee5f\\_monografia\\_ybytu\\_g.pdf](http://catedragalan.investigacionaccion.com.ar/trabajos/9151ea09f490a2d3af877ef22dfdee5f_monografia_ybytu_g.pdf)
- 44) [http://fido.palermo.edu/servicios\\_dyc/encuentro2010/index.php](http://fido.palermo.edu/servicios_dyc/encuentro2010/index.php)
- 45) Universidad de Palermo Facultad de Diseño y Comunicación <http://www.palermo.edu/dyc/>
- 46) Red Academica Argentina de Carreras de Diseño de Universidades Nacionales：アルゼンチン国立大学デザイン学科学術ネットワーク）<http://www.disur.edu.ar/> 2007年、デザイン学科のラテンアメリカ連合を形成する観点から、学術のプラットフォームとして創設された。研究政策、教育政策、開発地域のための技術移転政策・プログラム、環境についての地域政策などの探求を目的としている。
- 47) 2008年、ブエノスアイレス大学のデザイン学科により創設された「より納得のいく生活のための情報のデザイン」のためのネットワークである。<http://redinfodesign.org>
- 48) <http://www.disenioclub.com.ar>
- 49) <http://www.disenioparavos.com.ar> 独立デザイナーのための製品展示のバーチャル空間
- 50) ArconDiseñosというグループによって運営されている独立デザイナーによる作品の展示とエンカウンターを目的としたネットワークである。毎月、第2土曜日にファッションデーを実施することでネットワークをつくっている。参加者に要求されているのはデザインのオリジナリティーであり、希望者は自分のデザイン製品の写真をメールでグループのブログサイト<http://elarcondisenios.blogspot.com>に送ることになっている。
- 51) <http://contenidosdisenio.blogspot.com>
- 52) [http://www.argentina.ar/\\_es/cultura/C3950-disenadores-independientes-se-unen-para-capacitarse-producir-y-vender.php](http://www.argentina.ar/_es/cultura/C3950-disenadores-independientes-se-unen-para-capacitarse-producir-y-vender.php)
- 53) <http://foroalfa.org/>
- 54) DISEÑOLA（Organización Latinoamericana de Producción Intelectual en la disciplina del Diseño: ラテンアメリカデザイン学知的生産組織）は、アルゼンチンを含むラテンアメリカ10カ国の17人の委員会メンバーで運営される組織である。デザインにおける研究や提案の普及を目的とし、ウェブサイトdisenola.orgでは、アーティクル、E-book、マルチメディアの項目に分かれて意見や研究の交流ができるようになっている。
- 55) <http://www.nodal.com.ar> NODAL（Nodo Diseño AmericaLatina）は、ラテンアメリカの現実を基にしたデザインの研究、普及のためのネットワークである。交流や知識を共有するネットワークを構築しているが、単なるネットワークの連結点であるとしている。マニフェストには、社会包摂や人間環境に関係するなど、デザインの社会的重要性を自覚し、より良い公共性や連帯、相互協力関係のための活動を生み出す機関であることを謳っている。
- 56) <http://www.creatividadetica.org.ar>
- 57) Raiz Diseño（ルーツデザイン）は、アルゼンチン出身のデザイナーLaura Novikを中心に創設されたNPO組織のネットワークである。デザイン活動が、より良い世界の構築にとって重要な役目を果たすために、研究・研鑽し、提案を行っていくことを目的としている。現在は、チリを中心に、アルゼンチン、ブラジル、コロンビア、スペイン、イタリア、アメリカなどの国際的なネットワークの中で活動している。デザイン、文化、アイデンティティについてのアイデアの交流や議論を目的としていた創造的ラボ「ラテン・アイデンティティ」の集まりを発端として、2004年から2006年にか

けて、ラテンアメリカの国々で10回のエンカウンターを行っている。その対象は、未来のビジョン、起業、イノベーション、エンターテインメント、文化、ビジネス、政策、開発に亘っている。コミュニティの持続可能な発展の主導力としてのデザインの役割を、経済、環境、文化、社会の4つのベクトルの視点で捉え、デザインが社会構造の変化のツールになると考えている。このネットワークがチリで開催した2007年の国際シンポジウムでは、「デザインの起業文化を活性化できるか」「デザインは開発政策とともに見るべきか」「デザインは中小企業に役立つか」「デザイン研究はどのようにコミュニティへ届くのか」「新しいニッチ市場—新しい消費モード」などのテーマで報告や議論がなされた。

- 58) ソーシャル・デザインを意味する。ソーシャル・デザインまたは社会的デザインは、デザイン分野でも様々な意味での使用が見かけられ、また、デザイン分野以外でも、社会の構想といった意味で使われる場合があるが、ここでは、社会問題の解決や社会全体の利益になるなど、経済的目的ではなく、社会的な目的を第1に持ったプロダクトデザイン、グラフィックデザイン、ファッションデザインなどのデザイン活動を指す。『現代デザイン事典』[2010] 平凡社では、「デザインの社会的機能を強調するもの」として「日本でも1990年代以降、ソーシャル・デザインという語で、社会的デザインの課題の探求と展開が希求されている」と記述されており、本稿でもこの説明と同じ概念で使っている。
- 59) 「1983年の民政移管は、文化を解放させ、ラプラタ大学やクージョ大学に最初のデザイン科を設置させるとともに、生産者や消費者に新しいシナリオをもたらした。景気後退時、卒業生は仕事に就けず1970年から1989年にかけて服飾産業の生産高は34.3%に下落、デザイン専門家と産業界はお互いに信頼関係を築けない状態が2000年まで続いた。わずか8年足らずの間に服飾分野を中心としてデザイナーのイメージが大転換し、デザイン企業が生まれるようになった。ブエノスアイレスには、これらの生産を含む新しい経済回路が生まれ、デザインクラスターにつながり、最終的にはユネスコのデザインネットワークのノードに位置づけられるまでになったのである」Galán María Beatriz [2008] ‘El diseño en Agenda de la Transferencia. El Rol de la Universidad’ II JORNADAS RedVITEC 19, 20 de Noviembre de 2008, Universidad de Entre Rios.
- 60) ジョン・ヘスケット [2007] 『デザインの思考 つまようじからロゴマークまで』訳者あとがきp.227。
- 61) Finkelievich Susana ‘Social Organization through the Internet; Citizens Assemblies in Argentina’ ITIRA Conference 2002 ITIRA Congreso ,Central Queensland University, Rockhampton, Australia <http://www.links.org.ar/infoteca/socialorg.pdf>
- 62) <http://www.inaes.gov.ar> INAES (Instituto Nacional de Asociativismo y Economía Social)
- 63) <http://www.cenoc.gov.ar> CENOC (Centro Nacional de organizaciones de Comunidad) CENOCへの第3セクターや市民社会組織の登録数は、2000年以降急激に延び、2009年では15,395組織に及んでいる。CENOCでは、よりネットワークが機能するように、個々のネットワークのネットワーク化を目指している。Centro Nacional de Organizaciones de la Comunidad “Manual Metodológico para el fortalecimiento Institucional de Redes Territoriales de Organizaciones de Basea” Consejo Nacional de Coordinación de Políticas Sociales , Buenos Aires, 2008.
- 64) CIOBA (Centro de Informacion de las Organizaciones de la Ciudad de Buenos Aires) 社会開発課の市民社会強化部署に設立されており、市民社会組織の公共政策への参加を推進するためのプラットフォームとなっている。
- 65) CIESO (Centro de Investigaciones de la Economía Social) 1998年から、第3セクター関係の研究や、そのための人的資源の養成の推進をするための社会的機関の創設を目指し組織化が始まった。2000年に300人以上の参加を得てコルドバ州で開会式を開催、INAESに対しても州や市の中でも中心的な役割を果たす組織となった。2007年、より活動を広げるため、ブエノスアイレスに支所が設立された。
- 66) RILESS (Red de Investigadores Latinoamericanos de Economía Social y Solidaria) アルゼンチンを始め、ブラジル、コロンビア、メキシコなどラテンアメリカ諸国の連携による社会的経済の研究者たちのネットワークである。 <http://www.riless.org/otraeconomia>
- 67) 例えば、ラテンアメリカ社会的連帯的経済の研究者ネットワークの発行している電子雑誌 “Otra Economía” では、Pedro Senarの ‘Hacia un diseño disciplinar inclusión; Poles sociales del diseño industrial en Argentina’ などデザイン分野の実践が報告されている。 [www.riless.org/otraeconomia/senar4.pdf](http://www.riless.org/otraeconomia/senar4.pdf)
- 68) 「包摂的デザインに向けて：アルゼンチンにおけるインダストリアルデザインの社会的役割 ‘Hacia un diseño disciplinar inclusivo: Roles sociales del diseño Industrial en Argentina’」、「社会関係資本の開発のためのデザインとイノベーション



- ン：ブエノスアイレス州諸島工芸協同組合・manos・デル・デルタの事例 ‘Diseño e innovacion para el desarrollo del capital social El caso Manos del Delta.Cooperativa de Artesanos Islenos.Bs.As.Argentina’」 RILESS “Otra Economía” <http://www.riless.org/otraeconomia>
- 69) [http://www.inti.gob.ar/prodiseno/red\\_o.htm](http://www.inti.gob.ar/prodiseno/red_o.htm)
- 70) ‘Una visión retrospectiva de experiencia de transferencia de diseño en la universidad enfrentada al crisis económica y social en Argentina (アルゼンチンにおける経済的社会的危機に挑戦した大学におけるデザイントランスファーの経験の回顧的ビジョン)’ [http://www.investigacionaccion.com.ar/site/articulos/una\\_visionpdf\\_1113535003.pdf](http://www.investigacionaccion.com.ar/site/articulos/una_visionpdf_1113535003.pdf)
- 71) La Gestion Del Diseño En Argentina <http://www.slideshare.net/forocolombianodediseno/la-gestion-del-diseo-en-argentina-435670>
- 72) 同上
- 73) 佐々木雅幸 [2001・2009] p.216。
- 74) デザイン史家の柏木博は、「そして、第二次大戦後のデザインは、社会変革の意志をもった近代のプロジェクトとしてというよりは、市場をいかに獲得するかということが目的となっていた。」ことを指摘している（[1998]『デザインの20世紀』NHKブックスp.5）。また、小野二郎 [2011]『ウィリアム・モリス ラディカル・デザインの思想』（p.21）でも、第二次世界大戦後の日本において、モリスへの関心がぐっと低くなったことが指摘されている。

## 【参考文献】

- 内橋克人・佐野誠編 [2005]『ラテンアメリカは警告する』新評論。
- 遅野井茂雄・宇佐見耕一編 [2008]『21世紀ラテンアメリカの左派政権：虚像と実像』アジア経済研究所。
- 小池洋一・西島章次編 [1999]『ラテンアメリカの経済』新評論。
- 小池洋一・堀坂浩太郎 [1999]『ラテンアメリカの新生産システム論』アジア経済研究所。
- 佐々木雅幸 [2001・2009]『創造都市への挑戦』岩波書店。
- 佐々木雅幸・水内俊雄編著 [2009]『創造都市と社会包摂』水曜社。
- 佐野誠 [2009]『「もうひとつの失われた10年」を超えて』新評論。
- 篠田武司・宇佐見耕一編 [2009]『安心社会を創る』新評論。
- 菅谷実・金山智子編 [2007]『ネット時代の社会関係資本形成と市民意識』慶応義塾大学出版会。
- 西島章次・細野昭雄編著 [2004]『ラテンアメリカ経済論』ミネルヴァ書房。
- 野村亨・山本純一編著 [2006]『グローバル・ナショナル・ローカルの現在』慶応義塾大学出版会。
- 松本アルベルト [2007]『アルゼンチンを知るための54章』明石書店。
- 松下冽 [2006]『途上国社会の現在』法律文化社。
- 松下冽 [2007]『途上国の試練と挑戦』ミネルヴァ書房。
- 宮川公男・太守隆編 [2004]『ソーシャル・キャピタル』東洋経済新報社。
- Bonaldi Pablo [2007] ‘La larga historia de una politica social. Disputas y tensiones en la ejecución del Programa de Apoyo a Grupos Comunitarios de la Ciudad de Buenos Aires, 1986-2003’ Centro de Documentación en Políticas Sociales Direccion General de Promoción del Voluntariado y Sociedad Civil Subsecretaría de Gestión social y Comunitaria Ministerio de Derechos Humanos y Sociales del Gobierno de la Ciudad Autónoma de Buenos Aires.
- Casacuberta David [2008] ‘Industrias Culturales en la web2.0’ Fondo Multilateral de Inversiones Banco Inter-Americano de Desarrollo.
- Ciudad de Buenos Aires [2010], “Anuario Estadística 2009”, Buenos Aires [http://www.estadistica.buenosaires.gov.ar/areas/hacienda/sis\\_estadistico/buscador.php?tipopubli=33&subtipopubli=&titulo=&anio=&mes=](http://www.estadistica.buenosaires.gov.ar/areas/hacienda/sis_estadistico/buscador.php?tipopubli=33&subtipopubli=&titulo=&anio=&mes=)
- Centro Metropolitano de Diseño [2009] “EMPRESAS +DISEÑO”, Buenos Aires, CMD
- Centro Nacional de Organizaciones de la Comunidad [2007] “Organizaciones de la Sociedad Civil en la Argentina” Consejo Nacional de Coordinación de Políticas Sociales, Buenos Aires, CENOC

- CEPAL, Naciones Unidas [2010] “*Anuario estadístico de América Latina y Caribe*”, Santiago, CEPAL
- Dirección de Industrias creativas y Comercio Exterior, Ministerio de Desarrollo Economico, Gobierno de Ciudad de Buenos Aires [2010] “*ANUARIO2009 Industrias Creativas de la Ciudad de Buenos Aires*”, Buenos Aires, Gobierno de Ciudad de Buenos Aires
- Galán Beatriz [2007] ‘Transferencia de diseño en comunidades productivas emergentes’ Programa Acunar, Facultad de Artes, Universidad Nacional de Colombia “*diseño & Territorio*”, Bogota, Universidad Nacional de Colombia
- Galán María Beatriz [2008] ‘El sistema del diseño en Argentina, oportunidades para cooperación italo argentina.’ Panel Contexto Actual del Diseño, Workshop Argentino-Italiano sobre diseño industrial Dirección Nacional de Relaciones Internacionales, Ministerio de Ciencia Tecnología e Innovación Productiva
- Galán María Beatriz [2008] ‘Diseño y complejidad en la cátedra de Metodología de la Carrera de Diseño Industrial’ Universidad Nacional de Cuyo, Facultad de Artes y Diseño “*huellas...Búsquedas en Artes y Diseño No.6*”, Mendoza, Argentina, UNC
- Hantouch Julieta, Sola Alvarez María de los Angeles [2007] ‘Una aproximación a las Redes de Organización de la Sociedad Civil en Argentina’ 8th Conferencia de la sociedad internacional de investigadores del Tercer Sector, Barcelona, <http://www.istr.org/conferences/barcelona/WPVolume/Hantouch.Sola%20Alvarez.Esp.pdf>
- Instituto Nacional de Tecnología industrial [2009] “*Diseño en Argentina , estudio del impacto económico 2008 Instituto Nacional de Tecnología industrial Programa de Diseño*”, Buenos Aires, INTI
- Instituto Nacional de Tecnología industrial [2010] ‘Sumar con diseño Anuario del Programa de Diseño 2009’ INTI [http://www.inti.gov.ar/prodiseno/pdf/prodis\\_anuario\\_09.pdf](http://www.inti.gov.ar/prodiseno/pdf/prodis_anuario_09.pdf)
- Lovink Geert [2005] “*The Principle of Networking*” Amsterdam, HvA Publicaties.
- Luiz-Navarro José [2010] ‘ENTREPRENEUSHIP IN THE CULTURAL AND CREATIVE INDUSTRIES; OPPORTUNITIES AND DEGREES OF INNOVATION AND TECHNOLOGY’ 16th Internacional Conference on Cultural Economics ACEI Copenhagen.
- Red de Diseño Asociación Amigos del Centro Metropolitano de Diseño [2006] “*iF No.2*”, Buenos Aires, CMD
- Red de Diseño Asociación Amigos del Centro Metropolitano de Diseño [2009] “*iF No.5*”, Buenos Aires, CMD
- Red de Diseño Asociación Amigos del Centro Metropolitano de Diseño [2010] “*iF No.6*”, Buenos Aires, CMD
- Rodolíguez Herrera Adolfo, Alvarado Ugarte Hernán [2008] “*Claves de la innovación social en América Latina y el Caribe*” Santiago de Chile, Comisión Eómica para América Latina y el Caribe Naciones Unidas
- Secretaría de Investigación Facultad Arquitectura ,Diseño y Urbanismo [2008] “*Diseño y Artesanía*” Buenos Aires, Secretaría de Investigación Facultad Arquitectura ,Diseño y Urbanismo, UBA
- Throsby, David [2001] “*Economics and Culture*”, Cambridge University Press, Cambridge, (中谷武雄・後藤和子監訳 [2005] 『文化経済学入門』日本経済新聞社)
- Universidad de Palermo [2009] “*Actas de Diseño 7*”, Buenos Aires , UP
- Universidad de Palermo [2010] “*Actas de Diseño 8*”, Buenos Aires , UP
- 90+10[2010] “*90+10 No.28*”, Buenos Aires, 90+10
- 90+10[2010] “*90+10 No.29*”, Buenos Aires, 90+10